

カフェを利用した複合型図書館で地域課題解決に！

C124047A 小笠原蓮翔

テーマ：これまで以上に利用したくなるような図書館を提案する

1,これまでの図書館の見方

図書館といえば、静かすぎることや飲食禁止など一度は堅苦しいイメージを持ったことはあるだろう。本のページをめくったり咳払いをしたりなど、賑やかな場所なら気にならない雑音に注意を奪われやすい。また、学生をはじめとする長時間勉強したいのに、飲み物も、食べ物も口に出来ないのが現実だ。

そこで、図書館を利用する1年生の学生にインタビューをした結果、休憩スペースが無い事、飲食が出来ない事の二点が課題として挙げられた。これらの意見をもとに実際に図書館に行き体験をした。確かに、休憩スペースについては設けられている場所はなかったが、飲食については食べ物に関しては禁止されているが、飲み物は砂糖の入っていない水かお茶ならば持ち込み可能である事が分かった。

2,課題定義

課題として挙げられた、休憩スペースと飲食の二点に共通している潜在的ニーズは、ストレス軽減である。読書は一般的にはストレス軽減に効果があることは広く知られている。しかし、スマホの普及から普段読書に触れる機会が少なくなり、図書館で本を読みことへの抵抗から逆にストレスに感じてしまい、短時間しか集中できない。その結果、すぐに飽きてしまい休憩や飲食などストレス軽減のための空間の需要が高くなる。

3,プロトタイプの提案

これらの課題解決に対し、カフェを複合させた空間を作ることを提案する。場所に関しては2階にする。理由は1階と3階の間にあるのが理由だ。しかし、図書館で管理している本に匂いが移ったり、本を汚してしまったりしてしまう難点が生じる。そこで、実際の本を置かずレプリカを置く。そして裏側にQRを貼り、iPadに読み込みデジタル端末で本を読むことができる。そして、カフェに貸し出しのiPadを持ち込み、その空間の中でも読書が可能だ。人気などの理由で予約待ちの本や、返却する手間、本自体の衛生面などこれまでの紙端末での課題の解決にも繋がるだろう。さらに、カフェの食材を地域の食材にすることで、日本の地域が抱えている地産地消の課題解決にもなるだろう。

5,期待される効果

堅苦しいという図書館の見方をカフェという空間と複合させることによって、読書が苦手な人でも気軽に立ち寄れることの出来る場所となる。そして、地域の食材を使用することで地域性が高まり、学生だけに限定されない年齢層の獲得が期待できる。カフェと図書館という組み合わせは、全国に多くの事例があるが、デジタル端末での本の管理と地産地消という意外性が、多くの人の利用に繋がるだろう。